



## イスラエル：連立内閣内での不協和音

イスラエル政府内では、連立政党間の軋轢が増大し、内政が流動化しつつある。そのため2015年前半にも選挙が行われるかもしれないとの憶測報道が増加している。本来の選挙は2017年に行われる予定。また与党リクードは、2014年1月に党首選挙を行うことを決定した。

イスラエル国会は10月27日から冬季会期が開始されたが、2015年予算案をめぐる与党内の確執がすでに表面化している。さらに11月16日には、リクード議員が提出したイスラエルをユダヤ国家と規定する法案を閣僚委員会にはかることを、リブニ司法相が却下した。与党「ユダヤの家」党党首のベネット経済産業相は、同法案は連立協議で議論して合意された法案だとして、同法案が国会に提出されないのであれば、連立から抜ける姿勢を見せている。リブニ司法相は、独立宣言ですでにイスラエルはユダヤ国家と規定されており、新たな法案は不要だと主張している。

11月9日、リクード中央委員会は、2015年1月6日に党首選挙を行うことを決定した。同選挙の前には、党の規則などを変更する投票も行う予定である。翌10日、リクード中央委員会委員長のダニー・ダノンが党首選挙に立候補することを表明した。ダノン議員は、党内の権力抗争でネタニヤフ首相(党首)の対抗馬であり、7月には、エジプト仲介のガザ停戦案を受諾したとネタニヤフ首相を公の場で非難したことで、副国防相を解任されている。ダノン議員は、党首選挙立候補を表明した際、右派のリクード党員の支持を得るために最近ネタニヤフ首相が右寄りの発言をするようになったと非難し、首相は、左派でさえ実施したことのない入植地建設凍結を行い、テロリスト(パレスチナ人囚人)を釈放し、今年8月にはガザ停戦を受諾したと非難し、自分がリクードを本来あるべき路線に戻すと氣勢をあげている。党首選挙には、党内きっての極右政治家モシェ・フェイグリンも立候補すると見られている。

### 評価

イスラエル政界は、今後、内政問題を中心に展開する可能性が高い。中東和平問題、東エルサレムの聖地問題や治安問題、入植地問題など、イスラエルが国際社会の要請に対応する必要性が増大している時、イスラエルの政治家が内政問題や国内での権力闘争に忙殺されるようになれば、パレスチナとの関係はさらに悪化、緊張し、イスラエルの国際的孤立はさらに深まるかもしれない。

(中島主席研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799